

第4回

ワークショップ ふりかえり

のせのセッション

旧久佐々小学校体育館が、
図書館として生まれ変わります！

「あんな時間を
能勢に廻しーたー！」

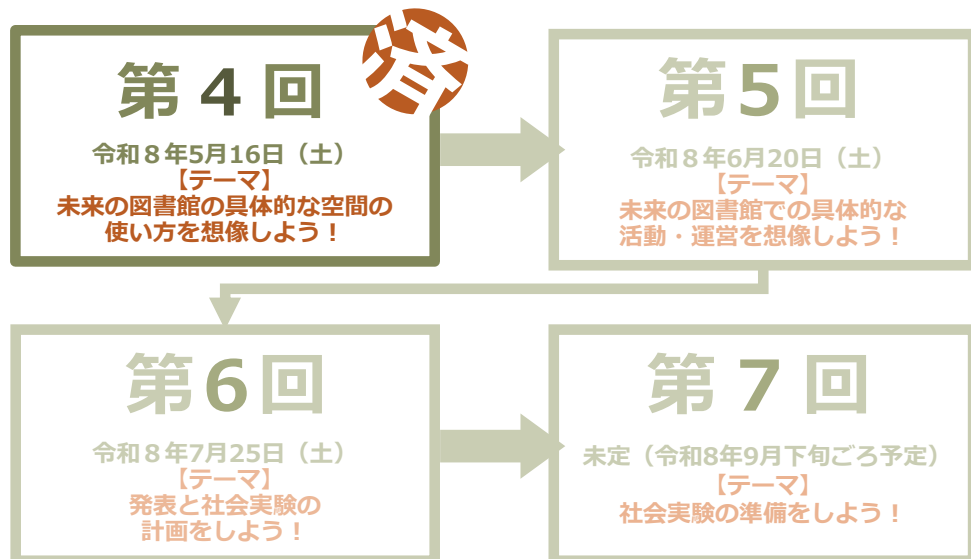
「能勢にこんな図書館が
あればいいの！」

「のせのセッション」って何？

能勢町では、旧久佐々小学校体育館「敬愛舎」を生涯学習センター（図書館）として改修するにあたり、単に「本を借りる・本を読む」だけの場所ではなく、子どもから大人まで気軽に立ち寄り、様々な学び・出会い・交流が生まれる“新しい図書館” にすることをめざしています。そのために、これからも能勢町で学び、暮らすみなさんと一緒に、能勢町の未来を対話（セッション）しながら、いろいろな想いを“のせ”で、つくっていきたいと考えて立ち上げたのが、この取組です。

令和8年度は計4回のワークショップを予定しています。前年度にまとめた基本構想を出発点として、新図書館の魅力はどう生かすか、具体的なレイアウトや改修計画のアイデアを出し合います。子供から高齢者まで、能勢に暮らす誰もが日常的に足を運びたいくなる拠点を目指し、アイデアを具体化していきます。

令和8年度ワークショップスケジュール 「能勢にこんな図書館をつくりたい」



第4回ワークショップを開催しました

令和8年5月16日（土）に敬愛舎にて第4回のワークショップを行いました。当日は、22名の方に参加いただきました。

まず参加者全員で体育館と今の図書室の大きさの違いを確認した後、2つの班に分かれて敬愛舎の現状（広さ、高さ、明るさ、音の反響など）を体感し、実際に書く数値を計測しました。

その後は3つの班に分かれ、計測を通じて感じた敬愛舎の魅力や変えていくべき点を魅力カード・改善カードにそれぞれ書き出しました。そして、意見を交換しながらカードを要素ごとに分類し、グループ内で意見をまとめました。

最後はグループごとにまとめたシートを発表し意見を共有しました。

ワークショップの内容

① アイスブレイク

→ 「のせのセッションワーク本」への書き込みを行う。

② ワーク①「敬愛舎を感じよう」

→ 敬愛舎の現状を体で感じるとともに、高さや広さ、音や光を実際に計測

③ ワーク②「敬愛舎を変えるアイデアを考えよう」

→ ワーク①で感じた敬愛舎の魅力や図書館利用時の改善点をカードに書き、要素ごとにまとめる

④ 全体共有

→ 各グループの意見を発表・共有する

ワークショップの様子



「新しい図書館で実現したい情景」

敬愛舎の現状を実測によって把握したうえで、空間が持つ魅力や、図書館にするために改善しなければいけないことを考えました。これまでのWSで描き出された「素敵な情景」を実現するため、より具体的なイメージを持って意見の共有が行われました。

A 班

空間・広さについて

魅力	面積が広い	ミニシアターできそう
	内壁が木造り	部屋が多い
	大きな窓から入る太陽の光	天井が高く解放感がある
	高さがあることで圧を感じにくく、開放的	高さ（吹き抜け感）
	二階テラスの明るさ、広さ	天井が高く音が響く
	ゆったりとした広い空間をうまく活用する（遊び場など）	広いスペース
	廊下の幅が広いのでギャラリーや歴史や自然を知る展示に利用	舞台を活用してイベントや上映会などを行う
	他の図書館にはない「舞台」おもしろい使い方ができそう	高さを利用
改善	音が響きすぎる	部屋として区切るスペースを作る
	素足でくつろげるところ	音・声が反響しすぎる
	冷暖房効率が悪い、高さが有効利用できない	ランニングコストが削減できるような工夫（照明、空調など）
	吹き抜けは面積もったいない	2階の床を作れないと延床面積がそこまで広くなくて高さを持て余す
	棚田を意識したところ	

音環境について

改善	天井が高いので、音が響く	音の響きは気になる人もいるのでは…？と思うので、部分的にでも見直した方が良いと思いました
	広すぎて空調ききにくそう	

その他

魅力	町の真ん中にあり集まりやすい	
改善	存在の意義	名称
	シビックゾーンや近場施設の利用と案内…マップ付き	図書館機能の充実（本の増設）をする

敬愛舎の開放感と天井の高さは図書館の魅力となる一方で、音の反響や空調効率といった実用面での課題と表裏一体であることが確認されました。解決策として舞台を上映会に、廊下をギャラリーに転用するなど場所ごとに役割を分ける提案がされ、仕切り等で快適な居心地を設計し、課題を魅力へ転換する方針が共有されました。

B 班

空間・広さについて

魅力	天井の高さ（圧迫感がない）	開放感のあるスペース
	開放感がある	空間を生かしたい（特に高さ）
	天井が高いため、空間が広く感じられて良い	何より広い空間を利用し、明るさを大いに取り入れる
	自然の空気等多くある窓を生かす	
改善	天井が高い分コーナーによっては工夫し（吹き抜けたり、照明を落としたりなど）その場の利用をしやすくする	
	吹きぬけ	仕切ってしまうのはもったいないが目的別に仕切る？
	天井が高すぎるので2階を作ったらよい	
	自然	コーナーの活用を考える（広い空間だけでは落ち着かない）

明るさ・雰囲気について

魅力	明るい、色彩がよい（木の色）	木製の部分を生かしたい
	木の壁がぬくもりがあって良い	
改善	自然光を生かしたい（照明は手元だけでok）	採光・自然の光が入ってくる場所（さえぎる物がない）
	もう少し外の景色が見えるとより良くなりそう	

音環境について

改善	音の響きは気になる人もいるのでは…？と思うので、部分的にでも見直した方が良くと思いました	音については反響するようなざわつきが気になる
	音が響く→小さい部屋にくぎる	音は気にしない？こういうもんだと…

その他

魅力	体育館として建てられた部分を残したい、生かしたい、ステージ、ステージ下の物入	外観が特徴的で面白い
	窓がかわいくて全体の雰囲気が良い	
改善	暑さ、寒さ対策	図書館の周りに水遊びができる水路
	午後遅くなるにつれて西日が熱くなってきそう来た時よりも今の方が暑い	暑そう、寒そう→風が入るようにする、断熱、太陽光パネル、薪ストーブ、グリーンカーテン
	手すりや天井の金属の緑色は少し時代を感じるかも…（あえて懐かしい雰囲気を売りにするならアリ）	

「今ある建物の良さを最大限に活かす」という方針を軸に、能勢の風土に適応した図書館の姿が描かれました。木の壁が持つぬくもりや、特徴的な窓のデザイン、天井のトラスの色味など、新築では出せない敬愛舎の記憶を資産として守ることが重視されました。一方で、西日対策や断熱といった環境面の改善については、薪ストーブやグリーンカーテン、太陽光パネルの活用など、自然エネルギーを賢く取り入れ、「古いけれど快適」という能勢らしい価値観の図書館を構築する方向性がまとまりました。

C 班

空間・広さについて

魅力	本を読む以外に使えるスペースが広い	天井の高さ
	広さ	舞台
	天井が高い	床・壁などがきれい
	キャットウォーク	解放的
	舞台がある（映画上演、コンサートなど）	何も区切りのないスペースを生かし可動"しきり"を多く使い、たびたび模様替える
改善	高さがありすぎる（冷暖房大変そう）	暑いときは天井が高いので冷房が多分きかない、天井を低くする工夫
	床	くぎり（スペース分け→にぎやか、ややしずか、とてもしずか）
	広い場所を用途ごとに活用できたらいいと思う	空調対策
	天井の高さ	

明るさ・雰囲気について

魅力	光と風、外の音が入る	体育館らしさを残せたらいい
	風が気持ちいい（通り抜ける風）	能勢の自然を感じる
改善	天気が悪い日は暗そう→適切な照明	外がほとんど見えず、せっかくの景色がわからない
	風が通る道があるので生かしてほしい	

音環境について

改善	音対策	意外と廊下も音が響く
----	-----	------------

その他

魅力	学習室に使える部屋がある	舞台を生かす（発表や展示など）
	廊下、多目的室などの利用はしやすいのでは	バスケットゴール
	足元（床近く）に窓がある	伝統的な名前のある建物なので、うまく使えば新しく建てるよりコスト面では有利かもしれません
	体育館の設備	備品（多目的室、たたみ、舞台、ピアノなど、使えるものを使える状態にして）
	年中空調を使わなくてもよい	
改善	夏・冬の温度管理	移動手段を確保すること
	太陽光発電	本棚の高さ
	備品をできるように魅力的に	多目的室の活用（屋上など）
	体育館全体を使うというより、うまく仕切って、内部の構造をかなり変えなくてはいけないと思う 床の音や空調など、何を（どんな部屋）作りこむかまず考えてみたい	
	空調	

天井の高さを活かした開放的な居場所と、仕切りを使った「こもり感」のある読書スペースなど、緩やかなゾーニングにより多様な世代が同時に過ごせる工夫が提案されました。また、「敬愛舎」の名称やステンドグラスといった歴史的価値を次世代へとつなげていく姿勢が共有されました。